

1911

第一九號

有

大臣

次官



人事課長

高級副官

參事官

主務局部長

聯帶局部長

主査課員

主務副官

主務課長

聯帶課長

受領

號

第三二六六號

第一師團司令部

件

名

判決裁可及特赦ノ件

三十一年二月

第一師團長御達案

元陸軍戸山學校體操劍術助教後備陸軍歩兵曹長

淨書

三月五日

犯罪事件判決書ヲ以テ上申、趣判決、通
宣告ノ後特赦状傳達セシム

陸軍省送乙第四四八號

三月八日

特赦状案 用紙辭令用紙

死刑囚

特典ヲ以テ本刑ニ一等ヲ減之無期徒刑ニ處

ス

明治三十一年二月四日

陸軍大臣畠野氏名印



勲八等

對シ第一師管軍法會議ニ於テ爲

シタル裁判ヲ審察スルニ被告カ殺意ヲ生シタル時ハ判決

書ニ於テ認定セルカ如ク果シテ校内對坐ノ時ニ在リタルヤ

又ハ被告カ判決延ニ於テ申立テ居ル如ク其相伴フテ校外

ニ出テ途中入金策ノ手設盡キタルノ時ニ在レヤ判然タラサル

如シト雖モ此等事實ノ認定ハ裁判官職權内ニ在ルヲ

以テ他ヨリ容喙スヘキニ非ス其認定ハ錯誤ナシトスルモ其殺

意ヲ生シタルノ時ハ下手前僅カニ三十分時ニ在リ慮ヲ積

ミ惡意ヲ蓄ム豫メ計謀スル所アリ然ル後キヲ下シタルモ

ノト同シカラス況ンヤ其殺意ヲ生シタルノ時ニ於テ仍ホ多

少ノ疑ヲ免レサルモノアリ之ニ擬スルニ極刑ヲ以テスルハ重過

タルモノアルヲ以テ本裁判御裁可上特典ヲ以テ死刑ニ等
ヲ減シ無期徒刑ニ占知セラレ度此段及上奏候也

十一月廿四日

大臣ヨリ總理大臣へ御移牒案

元陸軍戸山學校体操劍術科助教

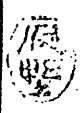
後備陸軍歩兵曹長勲二等

右之者裁判御裁可及特赦ニ關スル上奏書及進達
候也

送附 送附第三九三號

十一月廿四日

陸軍省



一本所犯情状ノ原諒スヘキモノアルニ拘ラス判決ニ於テ之ヲ
 酌量スルコトヲ為サリシヲ以テ本刑重キニ過クルト謂フニ
 在ラハ可^裁ナランモ豫メ計謀スル所アリテ予ヲ下レタルモノト
 同シカラズ即刑法ノ謀殺ニ該ラサルモノヲ謀殺トシテ判
 決セルカ故ニ重キニ過キタリト云ハハ行政廳トシテ顧慮
 スハキニ非ルカ

一情状ノ原諒スヘキモノナシト思惟ス

本件ノ判決及物故ニ付テハ本書ノ如ク言ハレタル如ク
 次及子孫利益及存続等々多ク及ニテ大長官等ハ如何
 フルニテハ此等事即言ハレタル如ク之等決ヒ得ルコト本書ニ
 本書及物故ニ付テハ本書ハ如何等々言ハレタル如ク

法

11911

内閣抄 七六号

明治三十年十二月廿四日曾送甲三四九三号

特典ヲ以テ死刑囚

等ヲ減シ無期徒刑ニ處ス

明治三十一年二月四日

奉勅 内閣總理大臣廣田毅伊藤博文



死一

三十一号一三六

内閣



1168

内閣
勅令
第七

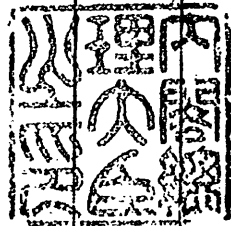
明治三十四年十二月二十四日 送甲二四九三号

判決ノ件ハ上奏ノ通

裁可ス

明治三十一年二月四日

奉勅 内閣總理大臣侯爵伊藤博文



送甲一三六

内閣

1169 1170



右之者先般 其子又 被告事件判決相成陸軍治罪法其ハナキ条ニ依リ
及具申候處明治廿年十月廿日再服役満期後備役ニ編入シテ康ニタル旨陸
軍戸山學校ヨリ通知有之候間此段上申候也

明治三十年十二月六日

陸軍一師團長男爵川村



陸軍大臣子爵高島鞞之助殿

三三三六
相第一八八三
一月七日



04TT 69TT



陸軍戸山学校体操剣術科助教

陸軍歩兵曹長 重八等

右之者先般 謀殺被告事件判決相成陸軍治罪法第百八十七条ニ依リ
及具申候處明治廿年十月廿日再服役満期後備役へ編入シテ康ニタル旨陸
軍戸山学校より通知有之候間此段上申候也

明治三十年十二月六日

第一師團團長男爵川村



陸軍大臣子爵高島鞆之助殿

相續一八八三

十月七日



陸軍大臣子爵高島勲之助殿

榮師團長子爵川村景明

明治三十四年十一月二日

筆記筆佩者 徳辨創制力致 徳筆善書 勤筆
右之者別紙之通判決相成矣 旨佳
軍治罪法身八十七条 依り 其旨及
具申 矣也

具申

陸軍大臣子爵高島勲之助殿

明治三十四年十一月二日

第一三四号



十四日



1172

陸軍省御用
御用

由岡寺記及

1871
西ノミヤノノリ

奉書乃且近印
馬去由是也息
四行有